

- 愛知県では、充実した森林資源の循環型利用のため、県内の森林整備を担う林業従事者の確保・育成が求められています。
- このため、県は、充実した森林資源を生かす循環型林業を推進し、安全かつ安心して働くことのできる魅力ある林業の実現を目指すため、2023年度から、これまで県森林・林業技術センター（新城市）において、森林・林業研修として行っていた講座を体系化し、キャリアアップに応じて必要な技術を習得できるコースとして再編成するとともに、新規就業者向けや未経験者向けの講座を拡充し、新たに「あいち林業技術強化カレッジ」としてオープンしました。

## □ 事業内容

- ・経験に応じた3コースの研修により、林業従事者の技術力の強化を図る。
- ・令和元年度は伐倒練習機、令和5年度はキックバック体験装置を導入した。今後も、新たな研修装置の導入など、研修体制の一層の強化を図る。

【事業費】23,287千円（うち全額譲与税）

【実績】林業従事者向け研修 実施日数 48日  
出席者(延) 399名  
キックバック体験装置 1基



（林業就業支援研修）



（キックバック体験装置）

		林業就業後		
		基礎コース	中堅コース	指導者コース
林業体験等				
目標	林業に対する理解促進 林業の担い手確保	安全な伐木技術習得	高度な伐木技術習得 木材生産技術習得	組織、現場指導者育成
対象	未経験者	1～3年目の新規就業者	4～10年目の中堅技術者	10年目以上の指導者
研修等 内容	高校生の林業体験や林業に興味を持つ者への林業体験研修の他、インターンシップ等を支援	就業初期段階で労働安全を徹底するとともに、安全な伐木技術や、林業に関する基礎知識、資格等を習得	枯損木やかかり木等の処理に必要な高度な技術の習得や、現場管理に必要な知識や技術、資格を習得	経営の視点、現場の統括、労働安全指導、より高度な技術、組織内外でのコミュニケーション能力の向上

「あいち林業技術強化カレッジ」における新たな研修体系

## □ 工夫・留意した点

- ・森林・林業研修を経験年数に応じた、3コースに分類することにより、キャリアアップ過程の見える化を図る。
- ・人材の育成を県が広域的に実施することで、市町村が行う森林整備等の支援を行う。

## ◇ 基礎データ

①令和5年度譲与額：179,782千円	②私有林人工林面積（※1）：112,747ha
③人口（※2）：7,542,415人	④林業就業者数（※2）：691人

※1：「2020農林業センサス」より、※2：「R2年国勢調査」より

- ▶ 愛知県では木材利用を促進するため、木材利用の普及啓発を目的としたイベントを都市部において開催するとともに、企業等が主催する各種イベントにおいてブース出展することで、広く県民に対するPR活動を実施している。
- ▶ 令和5年度は一般県民を対象としたものから、建築士・建材業者等を対象としたものまで計4回のイベントを開催・参加。

## □ 事業内容

### 令和5年度 木材利用関連イベント等でのPR実施業務

木材の利用について県民の関心と理解を深め、木材の利用が県内全域に大きく広がることを目指し、以下のイベントを開催・参加し、県産木材の消費拡大を図った。

- ・ウッドワンダーランド 2023【開催】
- ・第52回 建築総合展NAGOYA【ブース出展】
- ・あいち住まいるフェア 2023【ブース出展】
- ・第4回 SDGs フェスティバルin名古屋丸の内【ブース出展】

【事業費】19,323千円（全額譲与税）

【実績】全イベント来場者数 72,420人



（ウッドワンダーランド2023）



（第52回 建築総合展NAGOYA）



（あいち住まいるフェア2023）



（第4回 SDGsフェスティバルin名古屋丸の内）

## □ 工夫・留意した点

- ・イベントごとに来場者が異なるため（家族連れや建築士、建材業者、企業関係者等）、来場者に合わせた展示を心がけた。
- ・具体的には、家族連れが多く訪れた「ウッドワンダーランド 2023」や「あいち住まいるフェア 2023」では、木育を中心とした子ども向けの体験コーナーを設置した他、企業関係者の来場が多い「第4回 SDGsフェスティバルin名古屋丸の内」では、スタイリッシュなオフィス空間の展示等を中心に行った。
- ・木材利用に興味を持った来場者に適切に対応できるよう、適宜、県職員を配置して有効なPR活動に努めた。

## □ 取組の効果

- ・多数の幅広い来場者層に対して、有効な普及啓発活動を行う事ができた。

## ◇ 基礎データ

①令和5年度譲与額：179,782千円	②私有林人工林面積（※1）：112,747ha
③人口（※2）：7,542,415人	④林業就業者数（※2）：691人

※1：「2020農林業センサス」より、※2：「R2年国勢調査」より